

異業種交流&研修会の林業分野への参加者の主な発言

日時：平成 22 年 8 月 27 日

15:00 ~ 17:00

場所：高知市文化プラザかるぽーと

1 提案事項

- ①山を大事に育ててきた方が高齢化しており、売買等により山を大切にしてくれる人に管理していけるような事をしなくてはいけない。そのことが山の環境も良くしていく。
- ②地産外商も良いが、高知空港や高知インターなど、県内に入ったら木を感じるような使い方をして欲しい。山を見たら木はあるので、更に身近で木の香りを感じられるようになって欲しい。
- ③どうしても木造建築ではコストが高くなる事が課題である。そのコスト差を施主にどう理解して頂くか、木の香りや湿度調整など木の良さをや、それを引き出す職人の技術などをもっと PR する必要がある。
- ④間伐材の利用を考えないと、次の大きな木が育たない。東京で木造のビルを作った。集成材が多い中で、ラティスという合わせばりで格子状に組み合わせて強度を保つ構造だが、外国では木造のビルがあるのに国内は無い。高知が間伐材を利用して、最初にやるとインパクトがあるのではないか。良い材と間伐材を使い分けて使用することで、高知の山全体が良くなる。
- ⑤高知は全般的に所得が低い。家を建てたくても出来ない方が多い。そうなると、中古住宅の対策も必要である。マーケットはあると思う。

2 その他事項（要望や意見）

- ①山で安定した雇用を維持していくために仕事を確保して行かなくてはならないが、森林組合ばかりが優先しているように感じる。事業体の強化の各種研修や協働の森づくり事業についても、民間事業体にも間口を広げて欲しい。
- ②土佐派の家を建てて、大工や左官等の伝統的な技術を途絶えさせてはいけないと感じた。宮大工ではなく、住宅など普段の生活の中で伝統技術が残って欲しい。
- ③県内の助成制度が余り周知されていない。木の香る事業なども周知されていない。限られた予算の関係もあるだろうが、話題性も含めてもっと周知しなくてはいけない。
- ④嶺北など個別の取り組みや F S C の取り組みなども含め、土佐の木としてのローカルブランドをどう構築していくのか興味がある。
- ⑤人と話すと 8 割の方が木造建築は良いと言うが、実際に取り組むのは 4 割の方くらいである。内装についても同様である。8 割の方が木を使うよう取り組んで行きたい。
- ⑥高知は家を建てるための材料（木材、漆喰、土佐和紙等）は揃い技術もあるなど、木の文化、建築文化があると思う。それを残して欲しい。雇用にもつながり幅広い人にお金も回ることになる。